



男女共同参画に関する

市民アンケート調査を実施しました!

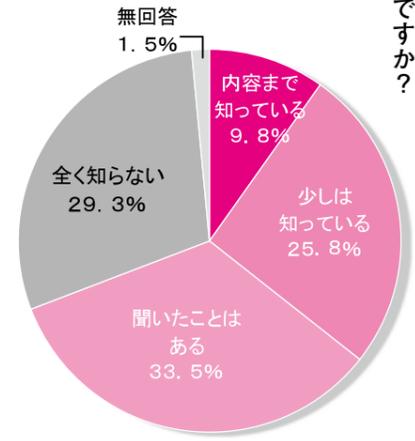
南国市では、男女があらゆる分野で支え合い、それぞれの個性と能力を發揮できる「男女共同参画社会」の実現のため、平成14年に「なんこく男女共生かがやきプラン」を策定し、さまざまな取り組みを続けています。今回は、昨年5月に実施した、男女共同参画に関する市民アンケート調査（対象者／南国市に住民登録のある市民2千人、有効回収数／713件）の結果をご紹介します。

Q「男女共同参画社会」という言葉を「存じますか？」

「内容まで知っている」割合は約1割で、「少しは知っている」割合を合わせても、4割に満たない状況です。

●男女共同参画社会の定義 (男女参画社会基本法第2条より)

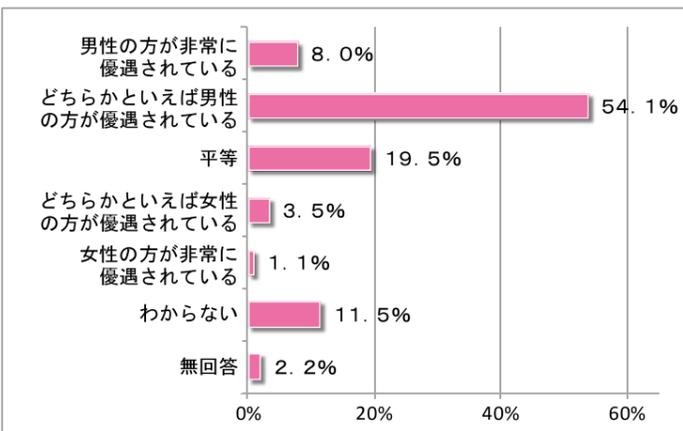
男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会。



●「参画」とは
「参画」は、単に会合などに出席・参加するだけでなく、物事の計画や立案に主体的に加わり、その決定に意見を反映させる立場となることを意味します。

Q「社会全体」で、男女の地位は平等になっていると思いますか？

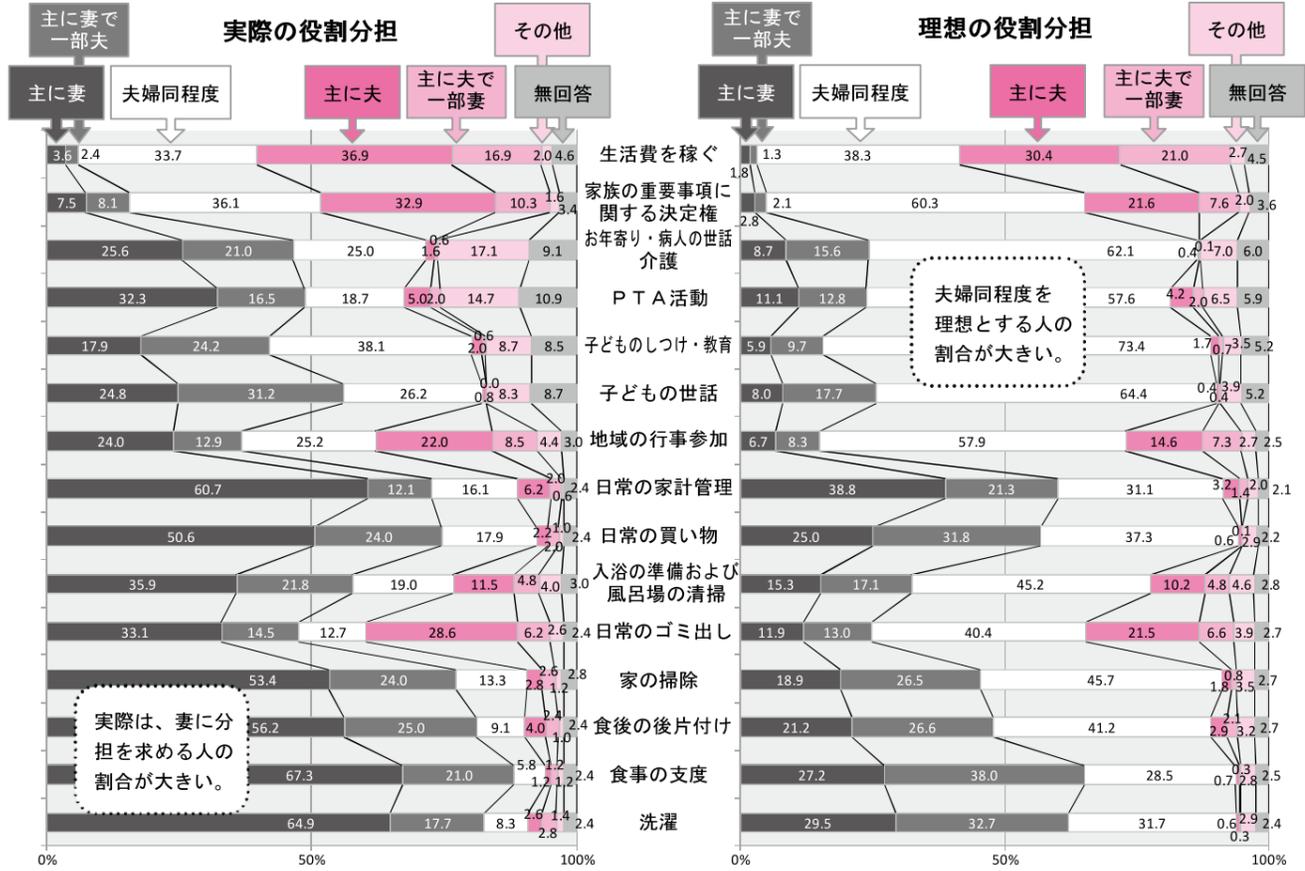
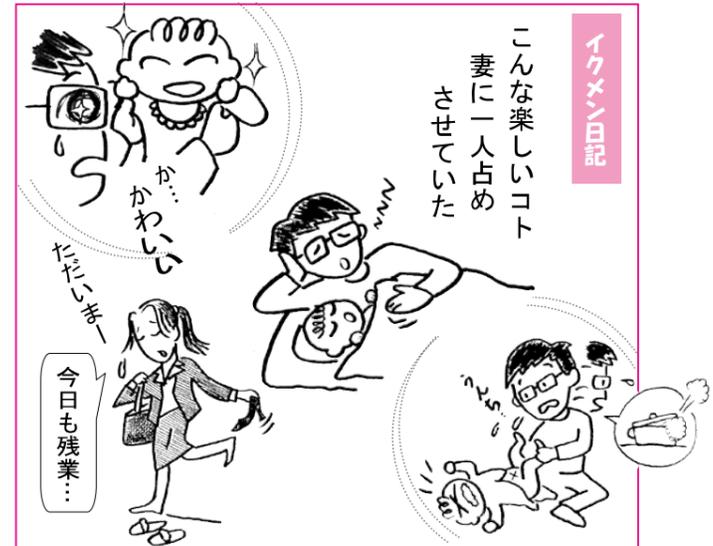
「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合を合わせると6割を超えており、社会全体において、男女の地位は、「男性優遇」意識の傾向が高いようです。



男女共同参画社会は、単に女性と男性とが同等に並ぶという形式的なことだけを望むのではなく、性別によってハンディを背負うことなく、それぞれの個性が生かされる社会の実現を目標にしています。

Q日常的な家庭での役割分担について、あなたの考える理想と実際に一番近いものをお答えください。

全体的に、理想の役割分担を「夫婦同程度」とする割合が大きいものの、実際には「主に妻」「主に妻で一部夫」の割合が大きい傾向にあります。また、理想も現実も「食事の支度」や「洗濯」については妻に分担を求め、「生活費を稼ぐ」では夫に分担を求め、割合が大きく、「男性は仕事、女性は家事」という固定的な性別役割分担意識が表れているようです。



夫婦同程度を理想とする人の割合が大きい。

実際は、妻に分担を求める人の割合が大きい。

市民アンケート調査の結果を、男女共同参画を推進するための新プランに生かします！
南国市では、男性も女性も日々の暮らしの中に生きがいや喜びを感じられる、男女共同参画社会の実現を目指して、今回の調査結果を基に、現在の「なんこく男女共生かがやきプラン」を見直し、現状を踏まえた新しいプランを策定する予定です。

●調査結果は、市のホームページに掲載しています。トップページから「分類でさがす」↓「人権」↓「男女共同参画に関する市民アンケート調査結果」をクリックしてください。

※お問い合わせは
生涯学習課生涯学習人権係
☎880・6569) まで